

清光学院 AP SEIKO

学校・塾・予備校の先生方へ

「今年も去年の方法で いけますか？」

入試は毎年変わっています。

でも、その「空白」を埋める準備はできていますか。

AP SEIKOは、先生方のその空白を埋めます。

「誰がそれを教えられるのか。

確かに、いないですよね。」

——AP SEIKOがその答えです

清光学院 / AP SEIKO © 清光教育総合研究所

入試環境の構造変化——もはや引き返せない現実

1-1 推薦・総合型が「例外」から「主流」へ

53.6%

2025年度
推薦・総合型による
大学入学者の割合
(文部科学省調査)

約60%

私立大学のみで見ると
さらに高く
約6割が推薦・総合型

数千種

現在、全国に存在する
推薦・総合型の
入試方式の数(年間)

△ これはもう、引き返せない変化です

2021年に推薦・総合型の入学者が一般入試を初めて上回って以来、この傾向は止まっていません。2025年度には53.6%に達しました。「自分の担当生徒の半数以上が推薦・総合型で受験する」というのが、すでに日本の平均的な現実です。

しかも、国公立大学でも総合型・推薦型の募集人員が全体の25.3%に達しており、そのうち53%が学力試験を課しています。難関校ほど「深い知識と論述力」を正面から問う方式になっています。

1-2 一般入試でも「記述・論述力」の比重が上昇

「うちは一般入試に特化した指導だから関係ない」とは言えない状況です。

大学・学部 2025年の入試の実態

東京大学 理系 「論証・見通し・条件整理が鍵」——数学は計算力だけでなく、なぜそうなるかを説明する力が問われる

京都大学 生物 「論述問題あり、実験考察問題が多い」——暗記だけでは高得点が取れない設計

医学部(全国) 記述・証明・論述の比重が年々増加。「解けるだけ」では合格点に届かなくなっている

出典：各大学別入試分析(2025年)

◇ 入試が向かう方向は一本の線

「知っている」から「考えて説明できる」へ。

これが一般入試・推薦・総合型を問わず、すべての入試に共通する方向性です。この方向に沿った指導コンテンツが、AP SEIKOです。

先生方が直面している「構造的な問題」

先生方が追いつけないのは、先生方の努力が足りないからではありません。入試制度の変化が速すぎ、かつ情報が不透明すぎるのです。

高校の先生が感じていること

「去年まで有効だったアドバイスが、今年は通用しない。毎年ゼロから情報を集め直している感覚です」

— 高校 進路指導教員

「自分が指導していることが正しいのかわからない。大学の求めているものと一致しているのか……確信が持てないまま指導しています」

— 高校 進路指導教員

「うちの学校では『地域の課題を調べてポスターにまとめる』程度のことしかできていません。これで都市部の進学校と同じ土俵で戦えるのか……」

— 地方公立高校 教員（探究学習について）

塾・予備校の先生が感じていること

「一般入試なら、過去問分析と模試データで精度の高い指導ができます。でも総合型選抜は……正直、毎年が実験です。去年うまくいった方法が今年も通用する保証はない」

— 大手予備校 講師

□ 「先生が追いつけない」ことを示すデータ

- 高校教員の 62% が「入学者選抜の多様化」を進路指導の最大の課題に挙げている（1位）
- 高校教員の 49% が「自分自身の知識・理解が不足している」と認めている
- 探究学習の指導に「負担が大きい」と答えた教員は 82%（1位）
- 教員の月平均残業時間は 80時間超（過労死ライン）——その上に専門外の入試指導が加わっている

出典：全国高等学校対象の教育改革実態調査（2024年）

□ 時間だけの問題ではない——専門知識の問題

医療倫理・統計リテラシー・生命倫理・薬理学・哲学——これらは教科指導の専門家である先生方が、養成課程で学ぶ内容ではありません。それを一から学んで指導するのは、現実的に不可能です。

これは先生方の責任ではありません。入試が変化した速度に、教える側の体制が追いついていないということです。

「誰がそれを教えられるのか」——現場の本質的な問い

「誰がそれを教えられるのか。確かに、いないよね。」

これは多くの先生方が内心で感じていることではないでしょうか。

高校の先生は教科のプロです。でも医療倫理や統計の専門家ではありません。

塾の先生は受験のプロです。でも毎年変わる総合型選抜の「正解」は誰にも見えません。

では、誰ならできるのか。

大学の先生です。

🍀 なぜ大学の先生でなければならないのか

- 入試問題を作っている本人たち——何を問いたいのか、何に感動するかを知っている
- その分野の第一線の経験者——医療・研究・実験の「本物」を知っている
- 「高校の先の世界」を知っている——受験生の壁がどこにあるかを知っている
- 総合型選抜の頻出テーマの「源泉」にいる——医療AI・ゲノム編集・統計・工学設計……これらは大学の研究テーマそのもの

先生方にとって、AP SEIKOはこう機能します

✕ AP SEIKOがないと

- 医療倫理・哲学の小論文対策が「なんとなく」になる
- 推薦面接で何を聞かれるか、正確に予測できない
- 統計・データサイエンス系の問いに答えられる生徒が育たない
- 毎年「去年の経験」に頼るしかない
- 予算・人材がある学校との格差が広がる一方

✔ AP SEIKOがあると

- 大学の先生が作った体系的な教材と教案がそのまま使える
- 推薦・総合型の頻出テーマを網羅した知識を生徒に届けられる
- 統計・医療倫理・哲学・薬理学など、教えるにくい領域をカバーできる
- 「今年も去年と同じ不安」から解放される
- 教材と教案のセットだから、授業準備の負担が大幅に減る

AP SEIKOが先生方に提供するもの

現場が「持っていないもの」と、AP SEIKOが「提供するもの」

| 現場が持っていないもの | AP SEIKOが提供するもの |
|------------------------|---|
| 科目横断的な「大学の知識」を生徒に届ける手段 | 第1期 全137講座（数学・物理・化学・生物・統計・英語・論述・哲学・医療・社会医学） |
| 医療・工学・農学の専門的小論文指導力 | 論述ブースト・各専門シリーズ（医療・哲学・統計・薬理） |
| 総合型選抜の頻出テーマへの体系的な知識 | 医療現場・医学史・哲学・社会医学・難問解法 各シリーズ |
| 「なぜそうなるか」を教える授業の台本 | 全講座に付属する講師用教案（演出台本・タイムライン・板書計画付き） |
| 授業準備に割く時間 | 教材プリント+教案のセット納品——準備ゼロで授業になる設計 |

教案（授業台本）の設計

□ AP SEIKOの教案に含まれているもの

- 授業の「衝撃体験」の演出方法と台詞の例
- 90分タイムライン（導入・展開・まとめの詳細手順）
- 発問のパターンと生徒の反応への対処法
- 板書計画・採点基準・よくあるミスの修正指導
- 模範答案の骨格と論述指導のポイント

多少授業が不慣れな先生でも、台本通りに進めれば生徒に「気づき」が生まれる設計です。

AP SEIKOが目指すもの——「先生の代わりに先生を作る」

- 専門知識がなくても、授業ができる
- 毎年ゼロから準備しなくてよくなる
- どの学校・どの塾でも、同じ質の指導が届く
- 格差を抱える地方公立高校にも、都市部と同じ内容を届けられる

**「もう毎年ゼロから集め直さなくていい。
この教案があれば、今日から授業ができる。」**

AP SEIKOは先生方のその実感を、全137講座で実現します。

ご関心のある先生方は、清光学院へお気軽にご相談ください。

清光学院 AP SEIKO / 学校・塾・予備校の先生方へ

© 清光教育総合研究所

清光学院 AP SEIKO / お問い合わせは清光学院までお気軽にどうぞ
© 清光教育総合研究所